

サントリー芸術財団コンサート
作曲家の個展 2013
権代敦彦



©Michiharu Okubo

A profile of a composer "Atsuhiko Gondai"

母～オルガンと笙のための 作品107 (2007)

*サントリー芸術財団委嘱作品

khola / matrix for organ and sho

デカセクシス～オーケストラのための 作品125 (2010)

*サイトウキネン・フェスティバル/カーネギーホール委嘱作品

Decathexis for orchestra

子守歌～メゾ・ソプラノ、ピアノ、児童合唱とオーケストラのための 作品90 (2005)

*22世紀クラブ委嘱作品

Berceuse for mezzo soprano, piano, children's chorus and orchestra

テキスト：山下和子「手記」、旧約聖書「知恵の書」、「死者のためのミサ」他

“新作” オルガンとオーケストラのための 作品139 (2013)

*サントリー芸術財団委嘱作品/初演

New work for organ and orchestra

指揮：山下一史

オルガン：近藤岳

笙：宮田まゆみ

メゾ・ソプラノ：波多野睦美

ピアノ：向井山朋子

児童合唱：NHK東京児童合唱団

管弦楽：東京都交響楽団

2013.10月11日[金] 19:00
サントリーホール

19:00 Friday, October 11, 2013 Suntory Hall

プレトーク 18:20～ 権代敦彦 × 向井山朋子 × 小沼純一

●入場料

S¥4,000・A¥3,000・B¥2,000・学生席¥1,000 (全指定席・税込)

*学生券はサントリーチケットセンター(電話・WEB・窓口)のみ取り扱い。25歳以下。来場時に学生証提示要。

●お問い合わせ・予約

東京コンサーツ Tel.03-3226-9755, Fax.03-3226-9882

<http://www.tokyo-concerts.co.jp>

●チケット取り扱い

サントリーホール・チケットセンター Tel.0570-55-0017

チケットぴあ Tel.0570-02-9999 (Pコード:201-324)

東京文化会館チケットセンター Tel.03-5685-0650

作曲家の個展について

サントリー芸術財団では、サントリー音楽賞の贈呈とその記念公演の開催に加え、「邦人作品の振興」を基本理念に、芥川作曲賞の贈呈、国際作曲委嘱、日本人作曲家の作品リストの出版、邦人作品を演奏するコンサートへの助成などの諸事業を行っています。「作曲家の個展」シリーズもその一環であり、毎年わが国のすぐれた作曲家1名を選び、その主要作品をまとめて紹介するコンサートで、これまでに30人の作曲家を取り上げ、好評を博してきました。第33回となる本年は、カトリックの信仰に基づく儀式としての音楽空間を探究し、近年は仏教音楽との交流から新たな領域を開拓している作曲家・権代敦彦氏の委嘱新作、そして氏の代表的作品をお楽しみいただきます。ご期待下さい。



権代敦彦

1965年生まれ。12歳の頃に聴いたメシアン音楽に惹かれ作曲を志す。メシアン音楽を通じ、カトリックへの関心が深まり、洗礼を受け、教会オルガニストも務める。桐朋学園で作曲を学んだ後DAAD奨学生としてフライブルク音楽大学に留学。更に文化庁芸術家在外研修員としてパリのIRCAMで研鑽を積む。ローマのブッキ国際作曲コンクール第1位(1991)、ワルシャワのセロツキ記念国際作曲コンペティション第2位(1992)、第6回芥川作曲賞(1996)、芸術選奨文部科学大臣新人賞(2002)等を受賞。17歳で作曲した「アヴェ・マリア」を作品1とし、合唱、オーケストラ、独奏曲、邦楽、雅楽、仏教音楽・声明との交流から生まれた曲まで140曲近い作品がある。またノイズ・ミュージックのMERZBOW、振付家リン・ファイミン率いるクラウド・ゲイト・ダンス・シアター、ダンサー・振付家の金森穂など、他分野とのコラボレーションも多い。2004年サントリー芸術財団主催「トランス・ミュージック」(大阪)のテーマ作曲家、2010年ロンドン・フィルハーモニア・オーケストラ主催「ミュージック・オブ・トゥデイ」の特集作曲家に選ばれた。2014年1月には初めてのオペラとなる「桜の記憶」(台本:リムヴィダス・スタンケヴィチェス)がリトアニア・カウナス国立劇場で初演される。



©K. Miura

山下一史(指揮)

84年桐朋学園大学卒業後、ベルリン芸術大学に留学。86年ニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。

カラヤンのアシスタントをつとめ、急病のカラヤンの代役をジーンズ姿で指揮をし話題となる。ヘルシンボリ響(スウェーデン)首席客演指揮者、九響常任指揮者、大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管常任指揮者などを歴任、08年4月同団名誉指揮者就任。06年仙台フィル指揮者就任、CD制作を行うなど積極的な活動を展開。09年4月から12年3月まで同団正指揮者。09年4月サントペテルブルク響定期に出演、大成功を収めたほか、11年2月にはシューマン歌劇「ゲノフェーファ」日本舞台初演を行うなど着実な成果を上げ、注目を浴びている。



近藤 岳(オルガン)

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。同大学別科オルガン科修了。同大学大学院修士課程音楽研究科(オルガン)修了。2006年文化庁派遣芸術家在外研修員としてフランス(パリ)に留学。国内外でのソロ演奏や、国内主要オーケストラとの共演も多数。邦人作品の初演や、自作自演、委嘱を受け手がけたオルガン作品も数多い。現在、ミュゼザ川崎シンフォニーホール・オルガニスト。東京藝術大学非常勤講師。日本オルガニスト協会会員。



宮田まゆみ(笙)

東洋の伝統楽器「笙」を国際的に広めた第一人者。古典雅楽はもとより、武満徹、ジョン・ケージ、細川俊夫など

現代作品の初演も数多く、小澤指揮サイトウ・キネン・オーケストラ、ニューヨーク・フィル、BBC響、N響ほか国内外のトップオーケストラと数多く共演。ザルツブルク、ウィーン、ルツェルン、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン、パリの秋、タングルウッド等各国の音楽祭への参加、ウィーン、パリ、アムステルダム、ミラノ、ニューヨーク、東京等でのリサイタルと活躍している。



©Hideya Amemiya

波多野睦美
(メゾ・ソプラノ)

英国ロンドンのトリニティ音楽大学声楽専攻科修了。イギリスのリュートソングでデビュー以来、バッハ、ヘンデルのオラトリオ、宗教作品のソリストを含め、国内外で多くのコンサート、音楽祭に出演。美しいことば、やわらかな声、魅力的な人物像の表現で聴く人に深い印象を与え、常に新しい世界へ踏み出している。近年は日本、英国他の近現代歌曲も重要なレパートリーとして活動しており、サイトウキネン武満徹メモリアル、水戸芸術館「高橋悠治の肖像」他に出演。



向井山朋子(ピアノ)

1991年ガウデアムス・コンクール優勝後、アンサンブル・モデルン、アンサンブル・アンテルコンタンポラン、ロンドン・シンフォニエッタ、コンサートヘボウなどでソリストとして新曲の初演に携わる。イリ・キリアン、マリーナ・アブラモヴィッチらとのコラボレーションのほか、従来の形式にとらわれない舞台芸術やインスタレーションなど美術の領域にも進出し、横浜トリエンナーレ、シドニービエンナーレ、越後妻有トリエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭などで作品を発表している。



NHK東京児童合唱団



東京都交響楽団

©Sayaka Ikemoto